

女性の活躍応援ジャーナル

Compass

vol.01



羅針盤の示す先に、
私が笑顔でいられる場所がある。



CAREER MODEL FILE.01 1
一つひとつ乗り越えて「不安」を「自信」に
～仕事をするこも、社会とつながる「私の居場所」～

企業訪問記 9

STUDENT INTERVIEW 5
失敗も人生のマイナスにはならない。
臆せずにチャレンジしてほしい！

起業家訪問記 10



一つひとつ乗り越えて「不安」を「自信」に ～仕事をするこも、社会とつながる“私の居場所”～

2016年4月に課長として就任した光田智子さんは、明るい笑顔が印象的なワーキングマザー。
「いろいろあったけど、仕事を続けてきて良かった」と言う光田さんに、これまで抱えてきた不安や葛藤、そして現在の状況や将来の目標などについてお話をうかがいました。



みつた ともこ

光田 智子さん

勤務先

大和信用金庫 檀原支店

プロフィール

2001年入庫、現在37歳のワーキングマザー。28歳で結婚し、31歳で出産を経験。1年半の育児休業を取得後、復職して5年目を迎えた2016年4月、課長職に抜擢。

11月からは檀原支店の営業課長。

家庭は夫と6歳の娘との3人暮らしで、家事・育児・仕事に奔走中！

新任管理職&子育て中

仕事の内容や経緯を教えてください。

営業課長です。窓口係が受け付けた内容を確認、精査するなど、課全体をまとめるのが仕事です。31歳のときに出産のためにお休みをし、1年半の育児休業の後に復職しました。そして復職から5年目で、課長に。今は檀原支店に着任して間もなく、まだまだ未熟で不安はいっぱいです。

私が働いている金融業は、法改正に伴った業務内容の変化が多い職種です。ですから、1年半の育児休業明けに復職するときは「浦島太郎」になっているかも…と、とても不安でした。実際に復職してしばらくは、休んでいる間に変わったことを確認する毎日。新しく入った若い同僚に、「それ違いますよ」と教えてもらったこともありました。当時は、仕事と子育てに追いかけるられるばかりで、状況に慣れるのに半年。1年くらい経って、ようやく産休前のペースを取り戻した感じです。

朝5時半からの自分時間

6歳のお子さんがいらっしやるということですが、1日のスケジュールを教えてください。

朝5時半に起きて、新聞に目を通し、身支度。庭の水やり、風呂掃除もこの時間に。それから子どもを6時45分に起こし、7時20分には出発。子どもを保育園に送り届け、8時に出勤します。夕方6時半には業務が終了するので、



「待ち前の明るい笑顔と
「なんとかなるよ」
の精神！」

大体6時45分には退店しています。

近くに両親が住んでいるので、子どものお迎えは母に頼んでいます。夕食、洗濯物の取り込みなどをすませて、お風呂。そして9時半には子どもを寝かしつけます。その後に片付けや夫の夕飯の準備をして、11時には寝たいなという感じです。力尽き、子どもと一緒に寝てしまうこともあります(笑)。
毎日が慌ただしくて、よく「時間が足りない！」と思います。私の自由時間は、朝。早く起きて試験勉強をしたり、片づけをしたり、子どもや夫にかまわなくてもいい、私だけの時間なんです。

周りの支えがあつてこそ

仕事、家事、育児と毎日大変だと思いますが、周囲の方はどのようにサポートしてくださっているのでしょうか？
子どもが3歳になるまでは時短勤務ができたのですが、当時は自分だけが早く帰る状況に、気が引けてしまうこともありました。でも「もう終わらせて帰りや」「仕事は誰でもできる。だけど、子どものお母さんはあなただけなんやからね」と声をかけてくれた上司や、仕事を引き受けて送り出してくれた仲間がいました。いくら制度があっても、それを快く受け入れてくれる職場の雰囲気があったら、制度を使いづらいくらいなものね。
家庭では、夫は朝に洗濯物を干したり、夕飯で使った食器を食洗機に入れるなど、できる範囲で家事を分担してくれます。それに、何かと気になって

しまい「やらなくちゃ」と思い詰める私に対して、「100%やるうと思うとしんどくなるから、手を抜いたらいいねん」と言ってくれて、気持ちに楽になってくれます。それから、両親が近くに来てサポートしてもらえらることもとても心強いです。

結婚、出産で変わったこと

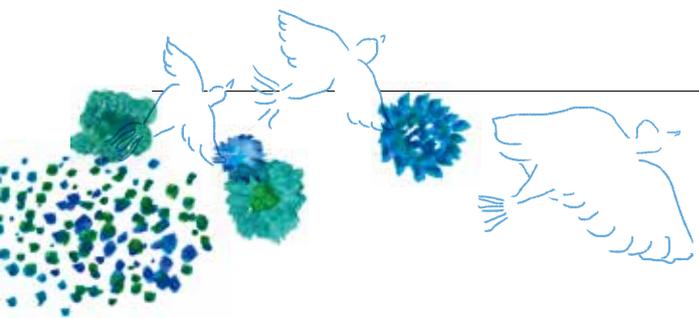
女性にとって結婚や出産は、仕事を続けていくうえでターニングポイントだと思のですが、不安はなかったのでしょうか？

入庫当時「ずっと働き続けよう」ということはぼんやりと思っていました。それとは別に「将来結婚したいな」「子どもがほしいな」ということも、なんとなく。でも、この2つの思いは、くっついていなかったんです。

結婚してからは、朝から洗濯をして、ごはんを作ったり、出産して復職してからは、子どもが朝ご飯をなかなか食べないとか、実際に直面してから「あれ？」と思ったり、思い通りに行かなくてジレンマを抱えたりしながら、乗り越えてきた感じですよ。

時間管理の仕方は以前と随分変わりました。時間って、すぐに過ぎるんです！何事も効率よく生産性を上げるのが大事だと考えるようになりました。時間内にしっかり仕事を仕上げて、できるだけ早く家のことをする。平日も子どもとのコミュニケーションを大切にしたいという思いは持っています。現実にはなかなか





一つひとつ乗り越えて「不安」を「自信」に

か難しいですけど(笑)。

私だけでなく、保育園で出会うお母さん方は基本的にワーキングママ。状況は人それぞれですが、抱えている悩みや心配は似ています。時には、気の合うママ友と一緒にランチをすることもあります。その間、子どもはパパと遊んでいます。ほんの1時間あまりですけど、おしゃべりをして笑い合うだけで元気になれるんです。

「大丈夫、なんとかなるよ」

最後に、将来の夢や目標、後に続く女性へのメッセージをお願いします。

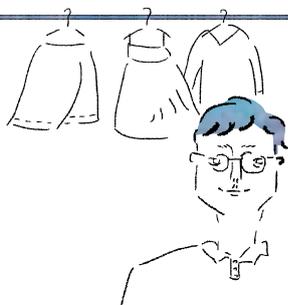
もしできることなら2人目がほしいなと思っています。そして、2人を育てながら仕事も続けたい。プラス課長職も毎日勉強中なので、もっと成長したいです。今持っている資格のさらにも目指したい。わあ、口に出してみると、ハードルが高そう！(笑)

大変なこともあるけれど、私は仕事を続けていて本当に良かったと思っています。仕事をすることも社会とつながる、自分の居場所だから。さらに、結婚や出産も、私を強くしてくれました。短い時間をいかに有効に使うかということも考えられるし、厳しい状況を乗り越えることに、自信がきます。復職当初はつらいこともありましたが、仕事にも子育てにも慣れていなくて、私自身にも余裕がまったくなく、子どもは病気をしたり、夜泣きをしたり。母も娘もいっぱいいっぱいでした。ただ今思えばその時間はあつとい

う間。子どもは驚くほど成長しますから。今日だって「ママその服めっちゃいい！」なんてほめてくれて(笑)。子どもはおもしろいですし、心を和らげてくれるとても大切な存在です。将来を考えるあまりに、不安に包まれてしまつてはもったいない！直面して、一步一步クリアしていけばいいんです。周りに頼つてもいいし、友だちと分かち合つてもいい。なんとかなるよ。体さえ元気であれば大丈夫！お互いがんばりましょう。

夫から…

普段はおっとりした性格の妻ですが、職場では違った顔を持った企業戦士になっていると思います。一方家庭では小学校入学前の娘がおり、やさしいママ、寝がでできる厳しいママです。仕事と家事の両立は決して楽なものではありませんが手を抜くことをしない妻ですので、夫の立場からは「もうちょっと楽をして欲しいかな…」。私は妻を誇りに思いますし良きパートナーとして互いに支えあって明るい家庭を築きたいです。



COLUMN

上司から応援メッセージ

Message from the boss

これからの成長が楽しみ！

本店営業部 次長 坂口 千代美さん

光田さんは入庫当時から涙腺が弱い子で、そこが良いところでもあり、業務を行う上では弱いところでもありました。結婚や出産を経て、芯が強くなり、表情や言動も変わってきました。特に仕事に対する向上心と、誰に対しても分け隔てがない態度に可能性を感じています。家族に感謝しながら、これからもがんばってもらいたいです。

女性が働いていると「しんどい時期」というのはどうしてもあると思います。仕事のことだけではなく、家庭のこともありますから、葛藤も多いです。でも、辞めることはいつでもできますから。会社にある制度を使ってみて、頼れるところは周りに頼ってみて、できる限りやってみてからでも遅くない。「働きたい」という気持ちを持っているなら、慌てなくてもきっと道はできていきます。

大和信用金庫は、早い段階から女性登用に力を入れて、制度も整えています。ただ、職場の環境や雰囲気は現場で作り上げるもの。その点に関しても経営陣の理解があることを実感しています。子育てに関しては私も通って来た道なので、フォローできることはすべてしたいと思っています。

大和信用金庫 <http://www.yamato-shinkin.co.jp/>

奈良県内20店舗を運営する地域密着型金融機関。女性の育児休業取得率は100%で、男性の育児休業取得者も。その他入学式、卒業式、参観日などに休暇を取得する学校行事参加休暇、義務教育終了までの子どもが体調を崩した時に休むことのできる看護休暇制度、配偶者産休中の育児休暇制度など、独自の休暇制度を設け、仕事と家庭の両立を応援している。



プロに聞く！ ワーク・ライフ・バランス実現のヒント

株式会社ICB代表 瀧井 智美さん

結婚を機に退職する「寿退職」という言葉はすっかり聞かなくなりましたが、「子どもが生まれると仕事と子育てを両立できるかどうか不安…」という人は多いかも知れません。確かに不安はあるかも知れませんが、退職してしまえば、仕事による自己実現の可能性や達成感、社会参加意識を得ることは難しくなります。また生涯の世帯年収を考えた時、夫婦ともに働き続けることは家計の安定にもつながります。

ヒントⅠ 一人で頑張らない

仕事と子育て、両方をやることは大変とイメージする人は、もしかしら全てを自分一人で行わないといけないと思っているからかも知れません。

今は子育てをサポートしてくれる制度や仕組みも整ってきました。地域で子育てをサポートするファミリー・サポート・センターや病気の子どもを一時的に預かってくれる病児・病後児保育施設、悩みの相談にのってくれる地域子育て支援センターなど、自分一人で抱えずに、様々なサポートの手をかりながら、みんなで子どもを育てていきましょう。たくさんの方が関わってくれることは子どもにとってもプラスになります。

※ファミリー・サポート・センターは、子育て中の方を会員として、育児の「援助を受けたい人」と「援助を行いたい人」がお互いに助け合う事業です。こうした子育てのサポートは他にも様々な形で取り組みが行われています。詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。



ヒントⅡ

限られた時間をうまく使いこなす

仕事と育児の両立では、限られた時間の中でどれだけ効率よく仕事をするのかがポイントになります。通常、仕事に優先順位をつけて残業時間を見込まない1日のスケジュールをたてますが、大切なのは優先順位を上司やメンバーとも共有すること。そうすれば、想定外の残業を回避することが可能です。

また、「いかに少ない時間」で「仕事の成果が出せたか」、というように時間当たりの効率への意識も高めます。かかった時間に意識を向けると、短い時間で成果を出す方法を考えられるようになるのです。

ただし頑張りすぎず、時には「しないことリスト」も作ってみましょう。「しなくてよい」と判断することで、不要な肩の荷がおります。自分でなくても大丈夫なものは手放し、その分自分を大切にすなりフレッシュの時間を取るなど、メリハリある時間の使い方を目指しましょう。

ヒントⅢ 丁寧なコミュニケーションを心掛ける

忙しいからこそ、周囲の人との良好な関係づくりを意識しましょう。仕事で悩みを抱えていても黙っていても周囲も分かりませんが、相談してみると問題解決のための様々なヒントを提供してくれるかもしれません。また助けてもらったときには感謝の気持ちを伝えましょう。「わかってきているはずだ」と考えたり、「どうせ話しても理解してもらえない」と思わず、相手に理解してもらえよう、相手のことも理解するよう、丁寧なコミュニケーションでより良い関係を築いていきましょう。

他にも色々な工夫があると思います。あなたらしい工夫をしながら「できない」ではなく「できる」へ。工夫次第であなたらしく働き続けることは実現できます。

(奈良県男女共同参画審議会委員・ワークライフバランスコンサルタント)



奈良県女性センター 働く女性の悩み相談

Q 妊娠がわかり育児休業を取得する予定です。長期に仕事を離れると仕事の勤が鈍るのではないかと焦ります。復職後の働き方を視野に入れて何かしておけることはありますか。アドバイスをお願いします。

A 育児休業は、働く親にとって一定の期間、子どもの成長にじっくり向き合える貴重な時間ですね。その一方で長期間仕事から離れることに不安も感じますよね。最近では、育休をキャリアのブランクととらえるのではなくブラッシュアップ期間ととらえる人が増えています。たとえば、仕事に役立つ知識やスキル、資格等、あなたにとってこの先何が必要になるかを、この機会にじっくり考えてみましょう。eラーニング、通信教育、土日限定の講座、赤ちゃん同伴で参加できるセミナーなど、様々な学習スタイルの講座もあります。育児に少し慣れてきたら、あなたもチャレンジしてみたいはいかがですか。そのためには、配偶者をはじめ周りの人たちの理解と協力が必要です。よく話し合ってみてください。

育休中にステップアップを目指し努力したことは自信につながり、スムーズに職場復帰できるのではないのでしょうか。

回答：奈良県女性センター働く女性支援アドバイザー

働く女性支援相談コーナー

「働き方」「仕事と家庭の両立」「キャリアアップ」などで悩んだら、奈良県女性センターの働く女性支援相談コーナーにお電話ください。

TEL 0742-27-2302 (相談日：火・水・木・土 9:30～12:30 13:30～17:00)



失敗も人生のマイナスにはならない。 臆せずにチャレンジしてほしい！

厚生労働省の第一線で活躍された村木厚子さん。結婚・出産・育児を経て働き続けてこられた先輩に、奈良女子大学の大学院生がインタビュー。素朴な疑問や不安な気持ちに答えながら、力強く背中を押してくれる村木さんに、たっぷりと元気ももらいました。



村木 厚子さん
Muraki Atsuko

岸本 真実さん
Kishimoto Masami

松岡 由佳さん
Matsuoka Yuka

仕事を続けてきた理由

岸本 村木さんのキャリアの中で、子育てをしながら仕事をするが大変だったこともあったかと思いますが、それでも仕事を続けてこられたモチベーションはどのようなものだったのでしょうか？

村木 私は就職するときから「ずっと長く働きたいなあ」と思っていたんです。そう考えた要因の一つに、私が中学2年生のとき、父親がわけあって失業したという出来事があります。しかし、私立の中学校を辞めずに卒業させてもらい、心配していたけれど大学にも行かせてもらいました。チャンスをたくさん与えてもらったから、働くことで返したいと思ったんです。それに、経済的に安定していることは人生でとても大切だと、身にしみて感じていました。

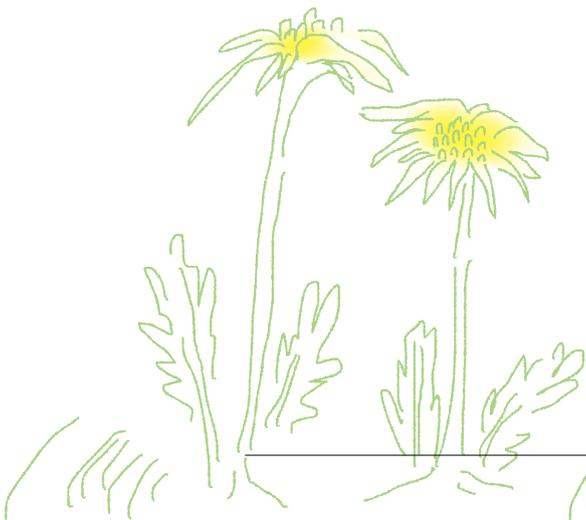
せっかく学校に行かせてもらったから、卒業したら働いて、自分のことを自分でちゃんと養っていけるようになりたかった。だから、辞めないで働き続けることはごく自然なことでした。とは言え、一度も迷わなかったわけではなく、危機がありました。

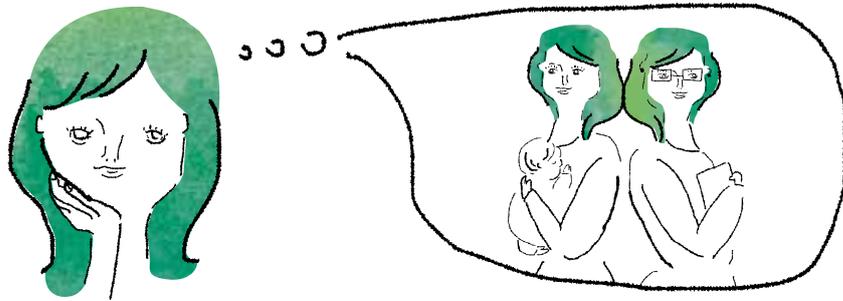
決意した瞬間 気持ちが楽になった

松岡 危機があった、ということですが、具体的にはどのようなことがあったのでしょうか？

村木 仕事を辞めようと思ったことが、実は1回だけあります。上の娘がある病気の発作を持っていたんです。眠って30分以内で発作が起きることが多いので、その間を見守り、もし発作があれば投薬して救急…。私の職場は残業がとても多いところだったので、娘が眠るまでに帰るとなると、職場で一番に帰らなければならない。上司に「すみません」、同僚に「ごめんね」と言いながら家に帰るといいう状況が続きました。その時の私はとても悩みました。

でもある日「子どものお母さんは私じゃない。あともうちょっと、精一杯がんばって、どうしてもダメだったら辞める」と決めた途端、気持ちが楽になったんです。





岸本 真実さん
奈良女子大学大学院 人間文化研究科
博士前期課程 生活文化学専攻1年

考えてみれば、今までが恵まれていたんだ。子どもと仕事、たまたま両方を手に入れられていただけで、それが片方になったからといって不幸になるわけではないですよ。そうして割り切ったら、急にパフォーマンスがあがって、それまでの私はよくよしていたから、仕事もうまくいかなかったんだと気づきました。時間を追うごとに仕事にも慣れてきてうまく回るようになり、子どもの病気もだんだん薬でうまくコントロールできるようになりました。この経験があつて、後輩には「よくよ悩まない」ということをよく言うようになったんです。

**理想的な環境じゃなくても
悩み過ぎないで**

松岡 働く女性にとって、仕事と家庭の両立は大きな課題です。制度が進んでも職場の雰囲気や、など、問題は単純ではなさそうです。現代の女性が働く環境を、どのように受けとめておられるのでしょうか？

村木 やはり職場全体が長時間労働か

早く脱しなければならぬと思っ
ています。女性や、子どもがいる人だけが早く帰ることができるというのは、とてもじゃないけれど居心地が悪いですものね。目の前の仕事も大事だけれど、家族のこと、健康のこと、地域社会のことなど、それぞれがバランス良く考えられているということは大切ですね。職場がその人の人生を独占してしまうと、家庭も細ってしまうし、地域も細ってしまう。働く人の労働時間を短くしていくというのは、社会全体で取り組むべき課題です。

それから、もう一つ大切なのが「保育」です。保育所に通わせてお母さんのほとんどは「私が一人きりで家庭保育をしていたら、これほど豊かに育てられなかった」と感じているのではないのでしょうか。保育士は保育のプロですし、広い庭があり、友だちがいる。保育とは「早期教育」ですね。

良い環境を与えるというのはとても大事なことで、お母さんの代わりに預かっているということだけではないはず。子どもが育つ幼児教育・保育の場を整えるというのは、とても大切



松岡 由佳さん
奈良女子大学大学院 人間文化研究科
博士後期課程 社会生活環境学専攻2年

です。
お父さん、お母さんが子どもを預けて働くことに罪悪感を抱く場合がありま
す。私もそうでしたが、あるとき自分に
質問してみたんです。「私が専業主婦
だったら100点満点のお母さんにな
れるか？」って。答えは「いや、それ
は無理だ」でした。子どもと接する時間
が短いことをハンデに思わずに、一緒
にいられる時間をどう過ごすか。そこ
に思いを注ぐべきですね。

私は労働時間が長かったので、娘たち
も我慢したことが多かったと思いま
すが、「でもお母さん、楽しそうに仕事
をしてたじゃない。それが良いモデル
になっている」と言っていますよ(笑)。
「もっとこうなればいいのに」と考えが
ちですけれど、理想的な環境じゃない
ときにも、あまり悩まないことです。

**ある時ふと自分の
適性がわかる瞬間がくる**

松岡 女性の生き方や働
き方が多様になってきて
いる中で、ロールモデル
が見つけにくいのではな
いかと思います。私自身
も20代半ばになってき
て、これからどうやって
自分の人生を進んでいけ
ばいいのか、モデルが見
つけられません。

村木 昔より今の方たち
は、何歳で結婚して、何歳

でこうなって…と、真面目に計画を立
てて考える人が多いような気がしま
す。私は後輩によくこう言います。「大
丈夫、心配しなさんな。あんたの思うよ
うにはならないから」って(笑)。みん
な悩みはバラバラです。仕事はある程
度コントロールできたとしても、ライ
フイベントはそうはいかないです。コ
ントロールが効くと言ったって、自分
に何の仕事が向いているかなんて、随
分後でわかることです。初めはラフ
ティンクのように、転覆しないように
がんばって激流に乗っていく。そうし
ていると、ある時ふと自分の適性がわ
かる瞬間がくるんです。それから、「そ
うか、じゃあ私はあの山に登ろう」と目
標を決めればいい。

岸本 「キャリアデザインをしましよ
う」といわれ、尻込みしてしまってい
るのかもしれないです。

村木 頭で一度描いてみるのは悪いこ



村木 厚子さん
1955年高知県生まれ。1978年高知大学卒業。同年労働
省(現厚生労働省)入省。女性政策、障がい者政策などに
携わり、2008年雇用均等・児童家庭局長、2012年社会・
援護局長などを歴任。2013年7月から2015年10月まで
厚生労働事務次官。

とではないです。ストレートに言ってしまうと、結婚適齢期はないけれど、出産適齢期はあります。ただこれも一つの答えはないです。私は29歳と35歳で出産しましたが、体力的には29歳の方が楽だったけれども、35歳のときは精神的に成長していました。どちらも良い点がありましたから。プランも大事だけれど、必ず偶発的なことも起きるということをお忘れなく。

子どもには迷わずに愛情を伝えること

岸本 仕事を持っているお母さんが少なかった時代に、お子さんへの対応で意識していたことはありますか？

村木 我が家において良かったと思うことは、夫も子どもにも向き合ってくれていたところですか。もちろん家事もこなしてくれました。「大きな苦勞をして、大きな幸せを手に入れると決めたんだ」と言っていて。私がしばらく家を空けても、夫と娘だけで生活に支障がないと言われてしまったくらい。私だって、一生懸命がんばっていたつもりだったんですけどね(笑)。

娘の病気の話をしましたけれども、あの出来事は私にとって自信になりました。あの時、「何があっても子どもをとる」と決めたことです。どっちが大事かと悶々とするのではなく、子どもが一番大事だとはっきり自覚することができたので、もやもやが吹き飛びました。子どもにも、「お母さんは他の何より

もあなたを一番大事だと思っているのよ」ということを堂々と言えますから。そう、それから、今思い返して、とても反省していることがあります。地方に幼い娘と2人で赴任した頃、仕事のハードさがそれまでに比べて少なく、割と時間があつたんです。家事をそれまでよりたくさんできました。でも、あの時もっと家事をさぼってれば良かったと思うんです。子どもにとって、「お母さんと一緒にこれをした」と心に残ることに、もっと時間を使えば良かった。

だから後輩には「さぼれる家事はさぼりなさい。子どもが、愛されている」と実感できることに時間を使いなさい」と言います。家事をさぼって、お母さんも楽をして、心に余裕を持てばいいんですから。

隠せずにチャレンジしてほしい

岸本 最後に、私たちの世代の女性にメッセージをいただきたいです。

村木 20代のあなたは、あらゆる可能性を持っているので、とてもうらやましいです。失敗も人生にとってマイナスにはならない。すべて自分の自信につながっていくから、隠せずにチャレンジしてほしいと思います。

最近大好きな漫画を読み返したのですが、「苦しいことは人を強くしてくれる」と書いてありました。本当にその通りだと思えます。

岸本・松岡 本日はどうもありがとうございました。



奈良女子大学記念館前にて

「自分に何が向いているのか最初はわからないもの。やっていくうちに見えてくることがあるので、チャレンジしてほしい。」インタビューの中で、最も印象に残っているメッセージです。私はこのメッセージに勇気づけられました。自身のキャリアプランについて考えるときに、仕事と家庭の両立の困難を想像してしまい、挑戦することに尻込みしている方々がきっと大勢いると思います。将来に不安や迷いがあるすべての方にこのメッセージが届いてほしいです。

岸本 真実さん

自分の人生を大切に、村木さんは言います。自らの幅や可能性を、職場や家庭での役割という枠の中に押し込めるのではなく、「わたし」を中心に日々の過ごし方を描き直してみる。仕事や子育てに熱心に取り組むことは決して悪いことではありませんが、何事もそれ一筋では、いつか息切れしてしまうはず。多様な「わたし」を許容し、また求めていくことで、周囲も含めた自分自身の毎日が豊かになっていくのではないのでしょうか。

松岡 由佳さん

インタビューを終えて



奈良県の女性が能力を十分に発揮して活躍できる社会を目指して

奈良県は、2016年3月に「奈良県女性の輝き・活躍促進計画」(第3次奈良県男女共同参画計画)を策定しました。

●男女がともに支える暮らしやすい奈良県

●多様性と活力に富んだ奈良県を基本目標に、

- ◆マインド(意識・考えを変える)
- ◆フィールド(活躍の場の拡大)
- ◆スキル(スキル・能力を高める)
- ◆ライフ(女性の健康や生活環境の改善)

の4つの観点から、女性が社会で活躍するための様々な課題を解決する方法

を考え、施策を展開しています。

「マインド」面からの取り組みのひとつとして、2016年12月17日には「奈良県女性の活躍促進フォーラム」を奈良女子大学記念館講堂(奈良市)にて開催しました。固定的な役割分担意識の払拭と、男女ともに仕事と生活

の調和を実現し、生き生きと暮らすためには何が必要か、基調講演とパネルディスカッションをおして、出演者から多くのヒントをいただきました。

今後も多様な選択肢の中から自ら希望する道を選び、結婚・出産など様々なライフイベントや困難があってもあきらめず、能力を発揮し続けることができるよう、施策をとおして女性を応援していきます。



計画の詳細、女性の活躍推進策、事業については、奈良県女性活躍推進課 <http://www.pref.nara.jp/1658.htm> 奈良県女性センター <http://www.pref.nara.jp/11774.htm>

奈良県女性の活躍促進フォーラム出演者のメッセージ

【基調講演から】

村木 厚子さんからのメッセージ

- 新しい仕事をするチャンスは受けなさい。
仕事の幅の広さは経験のかけ算になる。
- 昇進のオファーがあれば受けなさい。
階段を上ことで見えてくる景色がある。
- 女性の先輩などとのネットワークを作って、仕事を続けてほしい。



【パネルディスカッションから】

音田 昌子さん

「男女雇用機会均等法」施行当時「いま個性は性を超える」という標語があったが30年が過ぎた。男女を問わずその人の個性で人生を歩めばいいと思う。

(奈良県男女共同参画県民会議会長)



井上 京子さん

「ママライフバランス」つまり、自分が望むバランスの形で生きて行けたら、女性も社会もしあわせになるのではないかな。

(奈良のママが仕事をつくる会代表)



川口 章さん

結婚当時つれあいは仕事をし、自分は専業主婦だった。カップルのあり方は、世間の風潮にとられない自由な役割分業でないのではないかな。

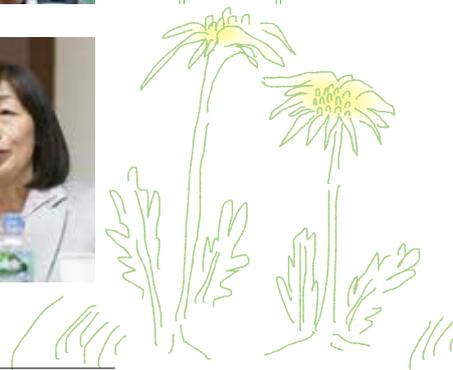
(同志社大学教授)



舟橋 正枝さん

仕事とともにプライベートを充実させるためには、仕事を楽しんで熱中してやってみることが大事。計画に沿って努力を続けることで幸せな偶発も起こるもの。

(産業カウンセラー)

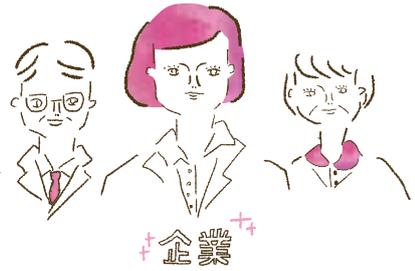


訪問記 FILE 01 株式会社 井上天極堂

企業

明日へ受け継がれる「あったか遺伝子」

奈良県名産の吉野本葛をはじめとした食品の製造販売を行っている株式会社井上天極堂では、子育て中の女性が生き生きと働いています。その秘訣はどこにあるのかを見つけに同社 橿原工場を訪ねました。



会社全体が一つの家族

明治3年（1870年）創業で、経営企画室、営業、業務、製造、品質管理、リテールの6部門があります。多くの女性が活躍しており、全従業員数131人のうち、94人が女性です。今回は勤続10数年のベテラン社員と入社数ヶ月の新入社員のお二人に話を伺いました。

訪問してみてもまず感じるのが、和気あいあいとした明るい雰囲気。年代や部署を問わず声を掛け合い、「コミュニケーションを取っています。まるで仲の良い家族のよう。いつも誰かが誰かのことを気にかけていて、フオーロし合える関係づくりが日常から出来上がっているようです。取材に答えてくれたお二人は、「社長はみんなのお父さんのような人」だ



橿原工場には店舗・カフェも



株式会社 井上天極堂

<http://www.kudzu.co.jp>

若い世代も安心して活躍

新入社員の西尾さんは「先輩方を見ていると、結婚や出産を経て働き続け

ているのが伝わってくるんです」。そう話してくれたのは、4人のお子さんを育てる経営企画室主任の川本さん。

同社の育児休業は1年、そして時短勤務は子どもが3歳になるまで。制度としては平均的ですが、2人、3人とたくさんのお子さんを育てながら、働き続けている女性も珍しくないそうです。「子どもが産まれることがわかると、みんなが「おめでとう！」と言ってくれます。そして復職したときには「おかえり！」と。まるで会社みんなの子どもみたいに、大切に思ってくれているのが伝わってくるんです」。そう話してくれたのは、4人のお子さんを育てる経営企画室主任の川本さん。

子育てを応援する風土

と言います。気負わず本音で相談でき、レスポンスも早いので、全体が同じベクトルに進むことができているそうです。



4人のお子さんを育てる川本 あづみさん



新入社員の西尾 実紗さん

ることにも何も不安はありません」と笑顔。同社の社内報を見せたいだくと、働いている方の赤ちゃんの写真が大きく扱われています。この社内報は、家庭に郵送され、希望があれば離れた実家にも。家族の方々に、会社での様子をみていただいで安心していただくためです。こういった一つひとつの取り組みから、同社のアットホームな雰囲気がわかります。

自身が温かく接してもらったから、次の人にも温かい対応をするのがごく自然。こういう環境があるから、経営側からの命令があるからでも、ルールで決められているからでもありません。「あったか遺伝子」が受け継がれた職場で醸成されてきたものなので、受け入れ合い、助け合える環境づくりの大切さを感じました。



駅伝大会に毎年会社ぐるみで参加

働いている人の声



私は入社してまだ数ヶ月ですが、職場の雰囲気がとても良いので、楽しく仕事をしています。就職活動をしていた時に、育児をしながら働いている女性社員の方に対応していただきました。「出産しても戻って来られるよ!」という言葉に説得力があり、安心して入社できました。仕事に関して、プライベートに関して、悩み事を話しやすい空気があることが、とてもありがたいです。今は研究開発や品質管理の補助をしていますが、いつかは中心になって仕事ができるようになりたいですし、結婚や出産をしても、仕事は続けていきたいと思っています。

品質管理課 西尾 実紗さん

起業家

訪問記 FILE 01 confiture cotocoto 奥田 晶子さん

流れに身を任せ、いつも自分らしく

生産者の思いがこもった安心できる野菜や果物を、丁寧に炊き上げて様々なコンフィチュールに。企業とのコラボ商品も生み出している奥田さんにお話を伺いました。



手づくりジャムで起業

光を浴びた色とりどりの瓶たち。手に取ると幸せな気持ちになり、食べるとそのやさしい味わいに心が和みます。大切に育てられた旬の素材を長く大切にいただく。「コトコト」のジャムやソースには、農作物への感謝、生産者への尊敬、食べる人への愛情…奥田さんの思いがあふれんばかりに詰まっています。

2011年に自家製コンフィチュールのネットショップを開いた奥田さん。現在では様々なコラボ商品を生み出すなど、活動の場を広げています。ではどのような経緯で起業に至ったのでしょうか。



野菜のおいしさを伝えたい

最初のきっかけは、嫁いだ先が専業農家だったこと。代々の知恵がまつた畑、そしてそこで育つ野菜のおいしさに魅了されます。そしてもう一つは、奥田さんが3人のお子さんのお母さんであること。長男は幼い頃は食が細くて、どうしても食べてくれるかと、試行錯誤の毎日だったそうです。おいしいパンなら食べてくれるかもしれないと、夜9時から大阪まで教室に通ったことも。食べてくれるとうれしくて、さらに作ることもおもしろくなり、周りの若いお母さんたちの要望でパン教室を開くようになりました。



奥田 晶子さん

confiture cotocotoのオーナー。奈良市在住。3人の子どものことを優先しながら、自分らしく働く形を見出し、手づくりジャムで起業。

詰め込んだ大切な「思い」

やがて「私と同じように、子どもや大切な人に、安心できるものを食べさせたい」と思っているお母さんたちの力になれないか…という思いと、畑を守る両親の生活の中に根付いていた「保存して大切に食べる」という習慣が結びつきます。

無添加のジャムから始まり、今では料理に便利なソースなども並びます。両親の畑から採れた野菜や果物を中心に、全国の生産者からも取り寄せ、「最高の食材をどうしても楽したく、おいしく食べていただけるかなあ」と考えている時間は、とても楽しいです」と奥

自分らしく、ありのまま

奥田さんのお話を聞いてみると、その時、その時に置かれたご自身の状況に対して、丁寧に、真剣に向き合ってきたからこそ、今にたどり着いたのだということがわかります。必要だと思いうこと、必要とされることを、流れに任せて表現していく。それが結果として、仕事につながってきたのではないのでしょうか。「格好つけていても、いつかバレてしまうでしょ？ だから無理せずありのままに、私らしいことをやっていきたいです」。やわらかな笑顔の向こうに、ブレのない芯の強さと、女性ならではのしなやかさを確かに感じました。



confiture cotocoto

<http://confiture-cotocoto.com/>

コンフィチュールはネットショップ販売のほか、イベント会場での販売も。

■ Information

■ 働くこと・働き続けることについての相談

奈良県女性センター
働く女性支援相談コーナー

奈良市東向南通 6
☎ 0742-27-2302

<http://www.pref.nara.jp/11890.htm>

■ 起業についての相談

奈良県女性活躍推進課

奈良市登大路町 30
☎ 0742-27-8679

<http://www.pref.nara.jp/41978.htm>

■ 子育て中の仕事の相談

子育て女性就職相談窓口
※ハローワーク窓口併設

奈良市西木辻町 93-6 (エルトピア奈良内)
☎ 0742-24-1150

<http://www.pref.nara.jp/24201.htm>

■ 母子家庭等の仕事の相談

奈良県スマイルセンター
(奈良県母子家庭等就業・自立支援センター)
※ハローワーク窓口併設

奈良市西木辻町 93-6 (エルトピア奈良内)
☎ 0742-24-7624

<http://www1.odn.ne.jp/smile-center/>

■ 就業全般の総合相談窓口

奈良県奈良しごと*i*センター
しごと相談ダイヤル

奈良市西木辻町 93-6 (エルトピア奈良内)
☎ 0742-23-5730

<http://www.pref.nara.jp/11833.htm>

奈良県高田しごと*i*センター
しごと相談ダイヤル

大和高田市幸町 2-33 (奈良県産業会館内)
☎ 0745-24-2010

■ 奈良県女性センター

奈良県女性センターは「男女がともに支える暮らしやすい奈良県」をめざす男女共同参画推進のための拠点施設です。固定的な性別役割分担意識の払拭、女性のエンパワメントや活躍支援などを目的とした講座・セミナー、相談事業、女性団体の活動支援事業など様々な取り組みを行っています。

開館時間 火～土曜日 9:30～20:30

日曜日・祝日 9:30～17:00

休館日 月曜日(祝日と重なるときはその翌日)、年末年始



■ 編集後記

これから結婚、出産や子育てなどのライフイベントに出会うあなたに、多様な選択肢の中から「仕事を辞めずに働き続けたい」「自分の個性や能力を活かしたい」など、自分の望む道を選ぶ意識を持ち続けてほしいと思い、このジャーナルを創刊しました。先輩たちの歩みがあなたの羅針盤(Compass)となりますように。編集部では、読者の皆さんのご意見、ご感想を募集しています。右のQRコードからお寄せください。



奈良県女性の活躍応援ジャーナル 創刊号 2017年2月発行

発行 奈良県

問合せ 奈良県女性センター 〒630-8216 奈良市東向南通 6

TEL 0742-27-2300 FAX 0742-22-6729 HP <http://www.pref.nara.jp/11774.htm>

デザイン・印刷 (株) JITSUGYO